

平成 21 年 度 事 業 報 告

(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

平成 21 年は、函館が横浜、長崎とともに国際貿易港として海外に門戸を開いてから 150 周年という記念すべき年でありました。

7 月 1 日の記念式典に続き、8 月には緑の島をステージに食・音楽・スポーツの 3 つのキーワードからなる「DREAMBOX150」が開催され、また、函館港まつりにおいては、長崎を始めとした開港 4 都市から観光親善大使やそれぞれの都市を代表する祭りをお招きし、多くの市民や観光客に楽しんでいただけたものと考えております。

当協会といたしましても、「ハコペロキャンペーン」と銘打って、西部地区の観光施設を巡る「ウォークビンゴラリー」や「顔はめラリー」を観光関連団体「箱館会」とともに実施したほか、函館開港 5 カ国協議会などとの共催事業として、歴史パネル特別展示「安政の 5 カ国条約と箱館開港」をロングランで実施いたしました。

また、大手旅行ウェブサイト運営会社との連携によるブロガーの活用やマスコミへのプロモーションを実施し、開港の街「函館」の情報発信に努めました。

広域・滞在型観光を促進する取り組みとしては、(社)北海道観光振興機構のバックアップを受け、渡島・檜山管内 18 市町全ての参加のもと「食」をメインとした「南北海道地域観光集中キャンペーン」を実施するとともに、同機構が取り組んでいる「ゆとりツーリズム北海道」魅力増進事業において、「函館・奥尻コース」が採択されたのを受け、商品化に向けたモニターツアーを実施したほか、東京・大阪でのプロモーションにも積極的に参加するなど南北海道の魅力を広く PR いたしました。

また、青森・函館の新幹線開業を見据え、(社)青森観光コンベンション協会と連携を図り、青函モデルコースブロガーモニターツアーを実施いたしました。

さらにインバウンド対策としては、台湾、韓国でのプロモーションや商談会を継続実施するとともに、経済成長が著しい中国からの観光客誘致事業として、上海、広州を訪問し主要航空会社へのチャーター便の運行要請を行ったほか、旅行エージェントへのプロモーションを実施し、函館の魅力の PR と知名度向上に努めてまいりました。

コンベンションの誘客・受け入れにつきましては、函館市とともに首都圏での商談会への参加や新たにアフターコンベンション観光 PR 用リーフレットを製作するとともに、コンベンション主催者の事前視察の受け入れを行い、平成 23 年度に 2 団体の全国大会が函館で開催決定されるなど成果が見られたところで

あります。

また、観光振興にとって重要なホスピタリティの向上を図るため、接遇研修会や各種講演会を開催したほか、パーソナル観光客の利便向上を目的としてボランティア団体の協力を得て、街歩きガイド「てくてくはこだて」を継続実施し、参加者から好評を博したところであります。

観光客誘致の大きな要素となっているイベント関係では、「箱館五稜郭祭」「函館港まつり」「函館野外劇」「はこだてクリスマスファンタジー」など当地域の歴史や風土に根ざした各種イベントの推進や、その情報発信に努めました。

このように当協会といたしましては、関係団体等との連携協力のもと、各種事業の推進に取り組んだところでありますが、昨年度上期の観光入込客数は、シルバーウィークの影響により9月の入込客数は好調であったものの、全国的な景気低迷や新型インフルエンザによる観光旅行の減少傾向に加え、航空機の減便や高速フェリーの休止などの影響もあり、前年度同期と比較し7.5%減の約287万6千人となりました。

一方、下期における観光動向は、今年に入り函館空港の乗降客数や主要観光施設の利用客数が前年を上回るなど観光需要の回復傾向が見られるものの、総じて引き続き厳しい状況にあり、平成21年度の観光入込客数は、昨年につき減少が見込まれております。

しかし、函館を含めた南北海道は北海道の歴史・文化の発祥の地であり、また豊かな自然や農水産物等食材の宝庫でもあり、道内他の地域に負けない観光資源を有している、ポテンシャルの高い地域であります。

これを証明するかのようには、昨年、民間のシンクタンクが実施した「地域ブランド調査2009」における魅力度ランキングで函館が第1位となり、全国で最も魅力的な「街」として選出されたところでございます。

国際観光都市を標榜している本市にとりましては誠に喜ばしく思うとともに、会員企業の皆様をはじめ先人の弛まぬ努力の結果であり、心より感謝と敬意を表する次第であります。

なお、函館市の指定管理者として当協会が運営しております旧イギリス領事館につきましては、昨年3月に函館開港150周年記念事業の一環としてリニューアルオープンしたことから、入館者は増加したところでありますが、さらなる観光客の誘客とともに市民に親しまれる施設となるよう各種イベントの開催やPR活動に積極的に取り組んでまいります。